

I. 次の文章 (い) とこれに関連する文章 (ろ) とを読み、下記の設問に答えなさい。

文章 (い)

日本と中国との外交は古く、たとえば、107年には倭国王 (1) (2) が遣いを出したことが (3) (4) に記されている。飛鳥時代に入ると、推古天皇の下で遣隋使が派遣され、これとともに (5) (6) といった留学生や、旻や (7) (8) といった留学僧が隋へと渡った。彼らは帰国後、当時の中国の制度や技術を日本に伝え、そうした知識は大化改新や律令国家の形成にも大きな影響を与えた。特に、(5) (6) と旻とは、政府の顧問である国博士に任ぜられている。

7世紀には頻繁に遣唐使が派遣され、一時中断を経て702年に再開された。再開直後の遣唐使においては、貧窮問答歌で有名な (9) (10) らが入唐している。8世紀においては、その後、およそ20年に1度の頻度で遣唐使の派遣が行われた。このうち、717年の遣唐使においては、(11) (12) や玄昉らが入唐した。その後、帰国した彼らは橘諸兄政権を支えた。しかし、藤原仲麻呂が台頭していく中で橘諸兄は権力を失っていき、玄昉は筑紫観世音寺へと左遷された。なお、この筑紫観世音寺には、正式な僧侶となるのに必要な受戒の儀式を行う場である (a) が設けられており、称徳天皇の寵愛を受けて政治への介入を強めた道鏡が、その後失脚ののち左遷された下野 (13) (14) 寺、そして東大寺とともに、「三 (a) 」と呼ばれている。

先述の道鏡にも見られる (ア) 仏教の政治介入に対処するために、桓武天皇は政治と結びつきの弱い新たな仏教を取り入れようとした。これに関連して、804年の遣唐使では空海や最澄が入唐し、帰国後、空海は真言宗を、最澄は天台宗を開いた。なお、空海はこの他、和気氏の (15) (16) のような貴族の子弟のための教育機関である大学別曹に対して (b) を創立し、庶民にも教育の門戸を開いた。そして、最後の遣唐使派遣となる838年の派遣では、円仁が入唐している。この唐での体験をまとめた著作が『 (c) 』である。

その後も貿易による交流は行われた。平安末期から鎌倉時代中期にかけては日宋貿易が行われ、宋が元に滅ぼされた後も貿易は行われた。この日元貿易船としては、(17) (18) が建長寺の修復費用を賄うために派遣した建長寺船や、(19) (20) を用うための寺院として (イ) 天龍寺を建立するための費用を賄うために派遣された天龍寺船が、代表的である。

14世紀に入り、(d) (太祖洪武帝) によって明が建国されると、明は日本に対して朝貢を求めるようになる。足利義満はこの求めに応じて明と国交を結び、「(21) (22)」宛の返書と明の暦とを与えられた。この国交開始に伴って (23) (24) 年に日明貿易が行われるようになる。そしてこの日明貿易は、日本に大量の銅銭 (洪武通宝・永楽通宝・(25) (26) 通宝など) をもたらし、国内における貨幣経済の一層の発達をもたらしたのである。

文章 (ろ) 以下は、文章 (い) の下線部 (ア) に関する記述である。

仏教の政治介入へ対処するために、桓武天皇は仏教勢力の弱い地域への遷都も行っている。これに関連して、この時代に行われた議論が徳政相論である。これは、良い政治とは何かについて、桓武天皇が (e) と (f) とに行かせた議論である。この際、(e) が「軍事」と「造作」の2つの事業を中止すべきであると主張し、桓武天皇がこの主張を受け入れた。このうち、「造作」は、先述の遷都に伴う平安京の造都を

指す。また、「軍事」は蝦夷征討事業を指す。すなわち、桓武天皇が即位した頃の東北では、(27) (28) と (29) (30) とが置かれていた多賀城が780年に襲われる（これを、(31) (32) の乱と呼ぶ）など、蝦夷の抵抗が強まっていた。こうした中で桓武天皇は、東北地方に対する支配を回復・強化するために、坂上田村麻呂を派遣して蝦夷の族長（阿弭流為）を降伏させたのである。その結果、802年には (29) (30) が多賀城から (33) (34) へと移された。

なお、(35) (36) 年に窮乏した御家人を救済するために、彼らが売却した土地の返還や債務の帳消しを命じた幕府法が「徳政」とされた（永仁の徳政令）ことから、徳政という概念は債務破棄を意味するようになった。室町時代には、救済の対象が御家人から民衆にも広がり、また、民衆たちが自ら、この意味の「徳政」を求めて一揆を行うようになる。この種の一揆として代表的なものに、(37) (38) の代初めに起きた正長の徳政一揆や、(39) (40) の代初めに起きた嘉吉の徳政一揆が挙げられる。この時代には、日明貿易の発展に伴う銅銭の流入によって貨幣経済の発達が一層進んでおり、これによってすでに都市・農村を問わず高利貸資本が浸透していたことも起因して、こうした一揆はたちまち広がりを見せた。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (39) (40) に当てはまる最も適切な語句を下記の語群より選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

| | | | | |
|-------------|------------|-----------|------------|----------|
| 11 1285 | 12 1297 | 13 1302 | 14 1401 | 15 1404 |
| 16 1411 | 17 足利直義 | 18 足利義量 | 19 足利義勝 | 20 足利義教 |
| 21 足利義政 | 22 足利義持 | 23 阿倍仲麻呂 | 24 胆沢城 | 25 犬上御田鍛 |
| 26 磐井 | 27 円覚 | 28 延暦 | 29 奥州探題 | 30 大伴旅人 |
| 31 大伴家持 | 32 雄勝城 | 33 柿本人麻呂 | 34 学館院 | 35 鎌倉幕府 |
| 36 寛永 | 37 勧学院 | 38 乾元 | 39 『漢書』地理志 | 40 鑑真 |
| 41 『魏志』倭人伝 | 42 吉備真備 | 43 薬師恵日 | 44 高師直 | 45 弘文院 |
| 46 『後漢書』東夷伝 | 47 後醍醐天皇 | 48 伊治咎麻呂 | 49 奨学院 | 50 帥升 |
| 51 宣徳 | 52 『宋書』倭国伝 | 53 大安 | 54 高向玄理 | 55 弾正台 |
| 56 中先代 | 57 鎮守府 | 58 出羽国府 | 59 天慶 | 60 徳丹城 |
| 61 難升米 | 62 日本国王源道義 | 63 日本国王臣源 | 64 日本国王良懐 | 65 裴世清 |
| 66 卑弥呼 | 67 武 | 68 藤原清河 | 69 北条時宗 | 70 南淵請安 |
| 71 陸奥国府 | 72 室町幕府 | 73 薬師 | 74 山上憶良 | 75 蘭溪道隆 |

問2 文中の空欄 (a) ～ (f) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 下線部 (イ) について、天龍寺を開いた僧の名前を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

II. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

江戸時代の対外関係は、(41) (42) ・中国（民間商船）・朝鮮・琉球・蝦夷地とのみ交渉を行うという、極めて制限された貿易・外交体制であった。この体制は、一般的に鎖国とよばれる。鎖国の理由は、キリスト教の禁止と、幕府による貿易の独占である。幕府のキリスト教への警戒を深めさせた島原の乱は、(43) (44) 氏が領主の島原地方と、(45) (46) 氏が領主の天草地方で起きた一揆である。キリシタン弾圧も理由となり農民達が抵抗した。幕府は、老中松平信綱を現地に派遣し、(41) (42) 船による砲撃加勢もあり一揆を鎮圧した。その後、キリスト教撤廃のため、(ア)ポルトガル船の来航を禁止した。さらに、1641年には(41) (42) 商館の場所を移し、長崎奉行が監視した。幕府は、中国との国交回復を試みたが断念し、その代わりに中国との私貿易を行った。その商船の寄港地も、長崎に限られることになる。

朝鮮については、家康政権時に(47) (48) 藩主の宗氏を通して国交が実現した。1609年、宗氏は毎年貿易船の派遣を朝鮮から認められる(a)を結んだ。朝鮮との貿易を独占的に言い、朝鮮からは朝鮮人参・木綿などが輸入され、日本からは銀・銅などを輸出した。江戸時代を通じて朝鮮から12回にわたって使節が来日した。初期の使節である(b)は、豊臣政権時の文禄・慶長の役（大きな被害を受けた朝鮮では(49) (50) とよぶ)により捕虜となった朝鮮人の返還を目的としたものであったが、4回目からの朝鮮通信使は、修好を目的とするものであった。

琉球は、15世紀から尚氏を王とする独立国であった。17世紀初め頃、島津家久の軍に征服され(51) (52) 藩の支配下に置かれた。(51) (52) 藩は、琉球に中国との朝貢貿易を継続させる一方で、琉球特産品を上納させていた。このように独立国という状態を維持しつつ、日本・中国の両属の外交体制の形をとっていた。一方、蝦夷地では古くからアイヌが生活していた。和人は、(53) (54) 半島に進出し、和入地とした。和入達を支配していた津軽の(55) (56) 氏に代わり、15世紀半ば頃より蠣崎氏（江戸時代には松前氏へ改名）が勢力を上げた。松前氏は、アイヌとの交易を独占する権利を幕府より与えられた。アイヌと交易する権利を松前氏が家臣に提供することで、主従関係が結ばれていた。この制度は(57) (58) とよばれる。和入との交易・交流をめぐっては、アイヌとの紛争が頻発した。例えば、1789年の(59) (60) の蜂起がその一つとしてあげられる。

こうして、外交体制を幕府が統括しつつ、長崎奉行と三藩主がそれぞれの国際関係を任されていた。「四つの窓口」の外側では、列強が18世紀後半から現れ、幕府は新たな対応を迫られた。ロシア船が蝦夷地周辺に姿を現すようになり、1791年に林子平は『(61) (62)』を出版し海防の必要性を説いた。(63) (64) 地域の船頭である(イ)大黒屋光太夫は、漂流後ロシアに滞在中、ロシアの女性皇帝(65) (66) に謁見し帰国が許された。ロシア使節ラクスマンはこれを機に来航し、幕府に通商を求めた。幕府は、鎖国を昔からの祖法とし要求を拒否した。また、入港を求められた(67) (68) と、蝦夷地の海防強化を図った。1804年、ロシア使節(69) (70) が、ラクスマンが持ち帰った入港許可証を持ち長崎に来航し、通商を求めた。幕府はその要求も拒否した。1825年に異国船打払令を出し、実際に1837年の(71) (72) 事件では同令に基づきアメリカ商船を撃退した。このような対外問題や、この頃国内で起こっていた一揆や打ちこわしへの不安も含めた内憂外患について、(73) (74) が幕府へ意見書『戊戌封事』を出した。

その後もアメリカ・ロシアなどからの開国の求めが続いた。1853年にはアメリカ使節ペリーが、(75) (76) 大統領の国書を持って日本に來航した。翌月、ロシア使節 (77) (78) が長崎に來航し開国などを求めた。ペリー來航時の老中首座 (79) (80) は、その後の対応を模索し始め、幕府だけで外交問題にあたるのではなく、朝廷への報告や、諸大名や幕臣などからの幅広い意見聴取を行った。人材面では、(73) (74) を幕政に参画させ、国内体制を強化した。外交問題により、幕政のあり方にも変化が見られるようになった。ペリー再来航時、やむなく、^(ウ)日米和親条約（別名、(c) 条約ともいう）を締結することになる。その後、他3か国とも和親条約を締結した。

問1 文中の空欄 (41) (42) ～ (79) (80) に当てはまる最も適切な語句を下記の語群より選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- | | | | | |
|------------|----------------|--------------|-------------|---------|
| 11 赤蝦夷風説考 | 12 商場知行制 | 13 阿部正弘 | 14 天草 | 15 有馬 |
| 16 アリュウシャン | 17 淡路 | 18 安藤（安東） | 19 井伊直弼 | 20 イギリス |
| 21 伊勢 | 22 エカチェリーナ 2 世 | 23 江戸湾 | 24 渡島 | 25 オランダ |
| 26 海国兵談 | 27 海賊取締令 | 28 樺太 | 29 クナシリ・メナシ | 30 熊本 |
| 31 江華島事件 | 32 コシャマイン | 33 小西 | 34 ゴローウニン | 35 佐賀 |
| 36 薩摩 | 37 三浦倭乱 | 38 シーボルト | 39 下田 | |
| 40 シャクシャイン | 41 知床 | 42 慎機論 | 43 壬辰・丁酉倭乱 | 44 スペイン |
| 45 武田 | 46 対馬 | 47 ディアナ号 | 48 寺沢 | 49 唐 |
| 50 徳川家定 | 51 徳川家慶 | 52 徳川斉昭 | 53 徳川慶喜 | 54 根室 |
| 55 函館 | 56 場所請負制 | 57 パーヴェル 1 世 | 58 ハリス | 59 ビッドル |
| 60 フィルモア | 61 フェートン号 | 62 福岡 | 63 プチャーチン | 64 封建制 |
| 65 細川 | 66 松倉 | 67 モリソン号 | 68 リコルド | |
| 69 リーフデ号 | 70 レザノフ | | | |

問2 文中の空欄 (a) ～ (c) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線（ア）について、ポルトガル商人らの利益独占を排除するため、1604年に幕府は糸割符制度を設け、京都・堺・長崎の商人に糸割符仲間をつくらせた。その後、2か所の商人が加わり、5か所となった。後から加わった2か所の当時の地名を漢字で書きなさい。
- (2) 下線（イ）について、蘭学者の桂川甫周が、帰国後の大黒屋光太夫の見聞などをまとめ著した外国地誌を漢字4字で書きなさい。
- (3) 下線（ウ）の条約では、日本がアメリカ以外の国と条約を締結した際、その条約と同等の内容をアメリカにも自動的に与える場合が定められている。それはどのような場合か、25字以内で説明しなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

100年前の1926年、東京・大阪・名古屋の各放送局を統合し、社団法人日本放送協会（NHK）が設立された。ラジオがマスメディアになるまで、新聞や雑誌などが近代文化の普及を支えた。〔81〕〔82〕の建議により、飛脚にかわって1871年に官営の郵便事業が開始された。〔83〕〔84〕・横浜間に最初の官営鉄道が敷かれ、電信の実用化も実現された。そして、〔85〕〔86〕が鉛活字の量産に成功し、活版印刷の技術が普及すると、各種の新聞や雑誌が創刊された。1870年に創刊された『〔87〕〔88〕』は最初の日刊紙である。また、1874年には、『明六雑誌』が創刊され、啓蒙主義思想の紹介につとめた。

新聞・雑誌は次第に世論に影響を与えるようになった。板垣退助らの民選議院設立の建白書は（ a ）に掲載され、自由民権運動の口火となった。1875年6月28日に公布された（ b ）と新聞紙条例が政府批判言論を弾圧する手段として利用された。朝鮮の甲申事変後、清との関係が緊迫したなかで、「脱亜論」が『〔89〕〔90〕』に掲載された。これらの政治評論を中心とする新聞は国民への政治思想の浸透に重要な役割を果たした。一方、江戸時代の〔91〕〔92〕の伝統を継承し娯楽中心の新聞も人気を博した。

三国干渉の勧告を受け入れた日本では、最初に新聞等で掲げられた「（ c ）」（中国春秋時代、呉越の争いの故事に由来する四字熟語）という標語が、世論のロシアに対する敵意の高まりを象徴した。そして、対露同志会や〔93〕〔94〕ら七博士が唱えた開戦論と『〔95〕〔96〕』を創刊した幸徳秋水らの非戦論が拮抗したなか、世論が次第に開戦論に傾き、日露戦争が始まった。

日清・日露戦争後、台北に台湾総督府が置かれ、〔97〕〔98〕を初代総督に任命した日本は、^(ア)最初の海外植民地を得た。朝鮮の京城に資源開発を目的とする国策会社（ d ）会社の本店が設立され、朝鮮総督府の初代総督に〔99〕〔100〕が就任した。〔99〕〔100〕は総督を経て内閣総理大臣に就任したが、富山県から全国に広がった「（ e ）」が新聞に報道され、その対応について世論に責任を追及され、内閣総辞職を求められた。関東州では、1906年9月に〔101〕〔102〕が旅順に置かれた。大連に南満洲鉄道株式会社が設立され、初代総裁の後藤新平は、1925年に東京放送局の初代総裁を務め、日本のラジオ放送を開始させた。

ラジオは速報性に優れるメディアとして、まもなく民衆に受け入れられた。「満洲某重大事件」以降、〔103〕〔104〕が満洲における権益の回復をめざしたことに、関東軍が「満蒙の危機」を感じた。満洲事変以降、ニュースを速やかに報道したラジオは、100万人以上の聴取者を獲得した。1936年、一部の陸軍の青年将校らが、1923年に『〔105〕〔106〕』を刊行した〔107〕〔108〕の思想的影響を受けて二・二六事件を起こした。この際、反乱軍に向けて勧告の放送をしたラジオは新聞にないメディアの威力を見せた。同年8月、日本は史上初のラジオによる海外生中継で、ベルリンオリンピックの実況を伝えた。

日中戦争の全面化にともない、1937年に戦時体制の強化を目的とした「〔109〕〔110〕運動」が開始された。戦争に非協力的な思想が取り締まられ、植民地経済政策の研究者で、政府の大陸政策を批判した東京帝国大学教授の〔111〕〔112〕が退職させられた。また、1940年、近衛内閣はマスメディアに対する取締の強化を目的として内閣〔113〕〔114〕を設置し、戦争協力・戦意発揚のためにラジオなどを利用する方針をとった。ラジオと戦争との関わりは、玉音放送によって終止符を打たれ、ミズーリ号艦上の降伏文書調印式は、日本では放送されなかった。

1951年、ラジオの民間放送が開始された。この年、日本は対米輸出が増え、〔115〕〔116〕景気の中で

(117) (118) や金属を中心に生産が拡大し、工業生産・実質国民総生産などが戦前の水準までに回復した。1953年にテレビの本放送が開始され、民間テレビ放送局も設立された。1955年から57年にかけて日本は (119) (120) 景気とよばれる大型の好景気を迎え、1950年代中頃から、高度成長期が始まることになる。その中で、コマーシャルの放送が消費意欲をかき立てた。^(イ) その結果、耐久消費財の著しい普及は経済成長を後押しした。 平和と繁栄を築く日本を世界に示した東京オリンピックは、史上初の衛星放送による国際中継に成功し、1970年、太陽の塔の頂部には、未来を象徴する金色が輝いた。

問1 文中の空欄 (81) (82) ～ (119) (120) に当てはまる最も適切な語句を下記の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- | | | | | |
|------------|-----------|-------------|--------------|----------|
| 11 赤松克麿 | 12 いざなぎ | 13 伊藤博文 | 14 井上馨 | 15 岩崎弥太郎 |
| 16 岩戸 | 17 上杉慎吉 | 18 浮世絵 | 19 大阪 | 20 桂太郎 |
| 21 樺山資紀 | 22 樺山資英 | 23 瓦版 | 24 関東局 | 25 関東総督府 |
| 26 関東庁 | 27 関東都督府 | 28 企画院 | 29 技術院 | 30 北一輝 |
| 31 黒岩涙香 | 32 小磯国昭 | 33 神戸 | 34 国体の本義 | 35 国民新聞 |
| 36 国民精神総動員 | 37 児玉源太郎 | 38 国家改造 | 39 国家改造案原理大綱 | |
| 40 斎藤実 | 41 時事新報 | 42 自動車 | 43 自由新聞 | 44 情報局 |
| 45 昭和維新試論 | 46 新橋 | 47 神武 | 48 石油 | 49 繊維 |
| 50 捜査局 | 51 総力戦体制 | 52 滝川幸辰 | 53 谷口黙次 | 54 張学思 |
| 55 張学良 | 56 張作霖 | 57 朝野新聞 | 58 寺内正毅 | |
| 59 東京朝日新聞 | 60 東京日日新聞 | 61 東京横浜毎日新聞 | | 62 特需 |
| 63 戸水寛人 | 64 長崎 | 65 錦絵 | 66 日本改造法案大綱 | |
| 67 平野富二 | 68 平民新聞 | 69 前島密 | 70 美濃部達吉 | 71 本木昌造 |
| 72 矢内原忠雄 | 73 翼賛選挙 | 74 横浜毎日新聞 | 75 吉野作造 | |

問2 文中の空欄 (a) ～ (e) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、大正デモクラシーの風潮のもとで、『東洋経済新報』で植民地の放棄を唱えた記者の名前を漢字で書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) について、(あ) この時代の耐久消費財などの普及に象徴される国民生活の変化を何とよぶか、(い) 経済成長のなかで大多数の国民が持つようになった自身の生活階層に関する考えを何とよぶか、それぞれ漢字4字で書きなさい。